



まなびネットいわて

現場の話 ④

過渡期を迎える成人式

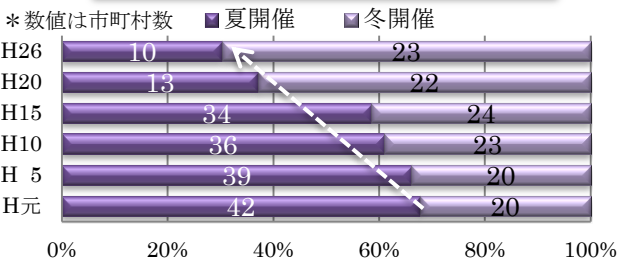


所長 佐藤 公一

1月の成人の日が過ぎた頃、妹から1枚の写真データがメール送信されてきました。それは、姪が振袖で成人式に出席している写真。「とても着物は買ってあげられないから、〇〇さん(従姉の名前)から借りたのよ…」といいながらも、着物姿の娘に親として満足げのようでした。

私たちの世代の成人式は、簡素化の風潮があり、軽装で出席可能な「夏の開催」という傾向が高かったのですが、最近はどうやら元に戻ってきているようです。成人の日は1月ですから、当然といえばそうなのかもしれません。また、この少子化の時代。我が子の晴れ姿には、親も力が入るのでしょう。その頃の新聞には、「袴や振袖のレンタルのニーズが高い」という旨の記事が載っていました。

成人式開催時期の推移 (県教委調査)



20歳から18歳へ

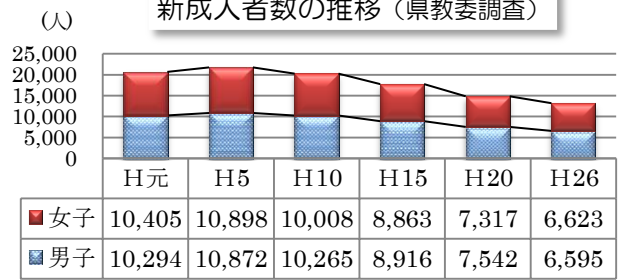
今国会で、公職選挙法の改正案が成立する見通しであることは周知のとおりです。選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられ、来夏の参院選から18歳以上による投票が実現しそうとのこと。世界に目を転じれば、そもそも現状の日本のような国はむしろ少数派で、約8割の国々の選挙権は既に「18歳以上」となっており、その背景には、政治を活性化するねらいや学生運動の影響などがあるといわれています。ということは、当然20歳を成年としている現在の民法も今後検討対象となり、いずれは「18

歳以上が大人」ということになるのでしょうか。

これまでの岩手の成人式の状況

資料(昭和59年度以降:県教委調査)によれば、本県における新成人者(当祝者)数は、平成6年度の約22,000人をピークに減少の一途をたどり(全国的傾向と合致)、今年度の当祝者数は約13,000人ですから、20年間で約4割も減っていることになります。

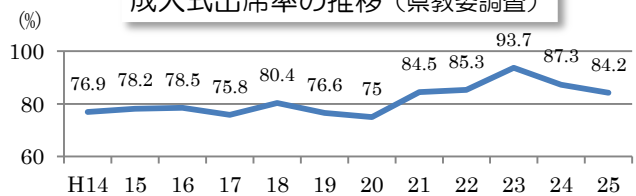
新成人者数の推移 (県教委調査)



また、成人式の出席状況は、下のグラフのとおりです。

東京ディズニーランドを会場とする、かの有名な浦安市の成人式出席率は、近年の最高値が80%弱と極めて高い率を誇るとのことですが、岩手はそういうところにも負けてはいません。特に、震災直後の成人式(23年度)は9割を超えており、当祝者の、友人や故郷に対する特別な思いを感じます。(出席率:%=県内総出席者/県内総対象者数×100)

成人式出席率の推移 (県教委調査)



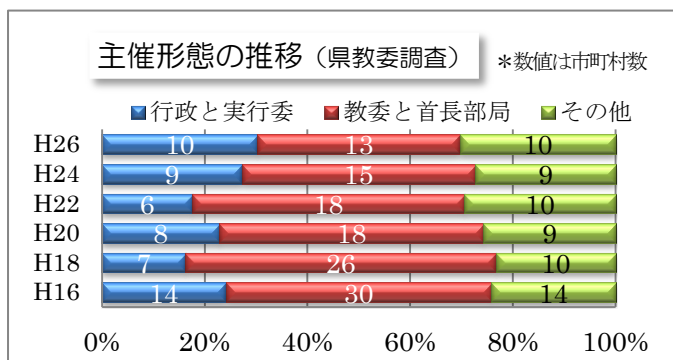
充実したものとする工夫

かつては「荒れる成人式」といわれ、その時期になると、全国各地の開催のようすがテレビや新聞でセンセーショナルに取り上げられることも多くあります。県教委が、毎年各市町村の協力をいただいて実施している「成人式に関する調査」においても、つい最近までその対応状況の把握のための設問が位置づけられていました。本県においては、

課題の多くは、主催者による企画や当日運営の工夫により克服されているようです。企画段階から「心に響く成人式」となるようなプログラム編成の工夫を施したり、参画感を大切に、より主体的なかわりを持たせようと「実行委員会方式」をとったりする市町村も増えてきています。

心に響くといえば、当祝者一人ひとりに親や家族からのメッセージを密かに準備してもらい、サプライズで当日に本人に渡したり、全体の前で紹介したりすることで、家族の絆や二十歳を迎えた意味を改めて考える機会とする奥州市の成人式スタイルは、合併前の旧水沢市時代からの取組で、平成17年2月にNHKの番組「人間ドキュメント」で紹介され、「水沢方式」として全国に知れわたりました。この番組により全国各地にその手法が広がったといえます。奥州市となってからも、その伝統は脈々と受け継がれています。

この「手紙」をテーマとする取組は、平成10年から当祝者による実行委員会が組織され、市教委の職員と力を合わせてスタートしたものだそうです。一人でも多くの当祝者に家族からのメッセージを秘密裏に確保して当日手渡してあげたい、との思いから、例年、関係スタッフが「もう少し…」と、式直前まで駆け回るのだといえます。



*このデータは「主催形態」の問いに対する回答結果であり、当祝者が主体的に関わる取組事例は、もっと多いものと推察されます。



花巻市の取組事例

(第15回 成人式大賞 2015 2年連続 準大賞受賞)

今、私の手元にある今年度の花巻市の成人式(1/10(土))開催要項には、その目的が「成人の意義を改めて考え、新成人を祝うとともに、郷土のすばらしさを認識する機会とする」と記されています。主催は花巻市ですが、運営は花巻市と成人式記念行事実行委員会(今回で5年目)が行います。25分間の式典に続き、実行委員会が企画・制作・運営する記念行事は、45分間が設定されています。

何うところによれば、昨年夏に市の広報で募集した実行委員は、同年9月下旬に発足し、46名が集まりました(24年度は28名)。注目すべきは、その構成が当祝者だけでな

く、次年度の対象者が17名も入っていることです。前の年度から参画し、1年先輩の姿を間近に見ながら共に活動し、学ぶことは多いことでしょう。その経験を踏まえて、今度は自分たちの番、というわけです。

彼らは、本番まで計18回の会議をこなし、それ以外に、別途設定された部会(①タイムスリップピクチャー部会: 記念行事で20年間の出来事をスライドで振り返るコーナーの企画・制作を担当、②恩師・地域部会: 中高生時代の恩師や地域住民の皆さんからのビデオメッセージやお祝いのメッセージボードを紹介する企画・制作を担当、③SNS部会: 成人式に関する様々な情報発信を担当)での自主的活動は、延42回を数えました。SNSによるFacebookやTwitterへの発信(投稿)回数は51回、Facebookの閲覧者数は36,000人を超えています。

記念行事を通して、スライドやビデオに出演した方々は、新成人、恩師、地域の皆さんを合わせて350名に上ったといえますから、実行委員がいかにか多くの人々と具体的に関わって取り組んできたかが容易に想像されます。自身のふるさと花巻について、それまで意識していなかった多くのことに気づき、感じ、考えたことでしょう。また、この取組を契機に、実行委の人的つながりは、OB・OG会「アイホーンはなまき」の活動に継続され、まちづくり等への関わりへと発展しています。紙面の都合上、断片的な紹介しかできなくて残念ですが、当祝者対象の事後アンケートによる今回の成人式の満足度95.4%という結果は、この取組が、いかにか成人者のニーズや心をつかみ、価値あるものとなっているかを表しています。出番や場面をうまく設定してあげられれば、若者は主体的に動くのです。資料を提供くださった花巻市生涯学習部 菊池剛史さんの「ひたすら待ち続けることです…」の一言が強く心に残ります。

社会教育において、苦戦することが多い青年教育(事業)の取組を考えると、唯一絶好の機会といえるこの成人式を、各市町村がどう生かすのか、が問われているといえます。

選挙権年齢が18歳となれば、恐らく成人年齢も18歳となるのでしょうか。成人式はあくまで慣習的なものなのでしょうが、次代を担う新成人の晴れやかな節目を何らかの形で祝い、仲間入りを歓迎することを欠かすことはできません。一方で、18歳はちょうど高校3年生。1月は受験を控えるという子も多くいます。中学を卒業して一足早く社会に生きる子どもたちに配慮しつつ、従前から成人式を主催してきた行政側が、高等学校等と連携協力してどのように取り組んでいくべきなのか、模索の時期が訪れます。

「まなびネットいわて」リニューアルのお知らせ

当センターホームページ「岩手県生涯学習情報提供システム まなびネットいわて」は、より見やすく使いやすいものを目指し、今回リニューアルをします。



◆研修会の日程、要項、申込はこちらから
研修会が近づきましたら掲載します。

◆講座・イベント情報、指導者・ボランティア情報等の情報は、こちらからダウンロードできます。
◆「子育てサポーター」の情報も掲載予定

◆トピックス（注目情報）を掲載します

◆当センターの実践研究の経過を随時掲載します。

◆「研修会の講師、ボランティアを探したい・・・」等の声にお答えする「マナビコール」、子育てについての悩みや相談に応える「すこやか電話相談、メール相談」の入口です。
◆当センターで配信している「いわてマナビマガジン」「すこやかメルマガ」の配信登録はこちらから

◆教育振興運動に関する情報はこちらから
各種資料や事例紹介のほかイメージソング「Hand in Hand」もダウンロードできます。

◆生涯学習ボランティアの登録、講座・イベント情報の掲載依頼はこちらから受け付けています。

◆市町村が行った事業の紹介コーナー
国庫事業を活用した事業及びH25の全国生涯学習ネットワークフォーラム情報を掲載

◆当センターの発行者の紹介コーナー
「復興に駆ける！」のほか情報紙やメルマガバックナンバーもご覧いただけます。

今回のリニューアルの特色

- トップページ上の情報を整理し、スクロールせずに確認できるようにしました。
- 注目情報「トピックス」と当センターの研究の実践研究の経過をお知らせするコーナーを新たに設けました。
- 当センター事業の紹介及び申込を一層しやすいものとするため、上部に研修事業のコーナーを設けました。
- 好評をいただいていた「復興に駆ける！」は、バックナンバーを整理しました。また、「全国生涯学習ネットワークフォーラム」「国庫補助を活用した市町村事業」も継続して掲載しています。

今後は、当所から毎週発行している「すこやかメールマガジン」、隔週で発行してきた「いわてマナビマガジン」についても、バックナンバーを整理し、随時掲載していきます。

また、26年度まで養成を図ってきた「岩手県子育てサポーター」について、登録者の市町村ごとの人数や取次ぎ先情報についても掲載していきたいと考えています。

今後もお役に立つ情報を掲載していきたいと思しますので、「新まなびネットいわて」をご活用ください。

※リニューアルは、3月20日(金)を予定しています。

ご意見をお寄せください

電話 0198-27-4555

Eメール masahiko-h@pref.iwate.jp

まなびネットいわて

検索

生涯学習推進センターが実施する

27年度事業のご紹介

昨年度当センターでは、42回の研修機会を所内外で実施し、約1,800の方々に受講いただきました。

また、「復興支援セミナー」「子育てサポーター養成講座」「読書ボランティア研修会」を24年度より沿岸部で開催するなど、被災地支援にも取り組んできました。

27年度も、沿岸地域の研修機会の充実にも努めていきたいと考えています。

● 新規事業

27年度は、新しく2つの事業を実施します。

◆「子育てサポーター活動促進セミナー」(主管)

(推進センター、県北、宮古、沿岸、県南各会場に開催)

平成12年度より今年度まで開催してきた「岩手県子育てサポーター養成講座」にかわって開催するものです。

サポーターの皆さんと、子育て支援関係者との相互理解・交流促進と活動を促す機会とするもので、アンケート等で要望が高い「スキルアップ」を中心としたものとする計画です。

◆「放課後児童支援員研修」

内容については、詳細が決定の後、当所ホームページまなびネットいわて等で紹介します。

● 5・6月の事業 (事業開始は5月からです)

27年度事業のうち、5月～6月に実施するものをご紹介します。事業の年間計画は、当センターホームページ「まなびネットいわて」に後日(リニューアル後)掲載いたします。是非早めに研修計画の参考とさせていただきますようお願いいたします。多数の皆様を受講をお待ちしております。

(↓昨年度実施事業から)

【5月】

12日(火)	教育振興運動市町村担当者研修会 27年度の教育振興運動概要の説明も実施
14日(木)	新任社会教育関係職員研修講座 新しく社会教育関係の仕事に就かれた方への研修
21日(火)	社会教育指導員等研修講座 社会教育指導員のスキルアップの研修会
27日(水)	家庭教育支援担当者のためのプログラムデザイン研修講座① 1回目・2回目は、地域づくり等を担当される方にも受講いただける内容を計画

【6月】

2日(火)	復興支援セミナー(宮古地区)① 沿岸部で要請により開催
5日(金)	学校支援ボランティア推進研修会 学校支援地域本部事業に携わる方のスキルアップと相互交流
11日(木)	子育てサポーター活動促進セミナー(センター会場) 先に紹介の新規事業
12日(水)	希望移動研修(県北地区) 市町村等の要望により開催
18日(木)	県地域視聴覚教育協議会専任職員等研修会
19日(金)	県内の地域視聴覚に携わる方の相互交流
23日(火)	読書ボランティア研修会(センター会場) 読書ボランティアのスキルアップ(全県対象)
24日(水)	希望移動研修(盛岡地区)①
25日(木)	復興支援セミナー(県北地区)①
29日(月)	復興支援セミナー(宮古地区)②

※ 3月16日現在のものであり、講師等の都合により変更となる場合があります。



推進センター研究発表会



研究発表会(ポスターセッション)



家庭教育支援担当者のためのPD研修③

「岩手県立生涯学習推進センター情報」第83号 / 編集・発行 岩手県立生涯学習推進センター